

黒郷地区まちづくり推進計画

平成30(2018)年3月

黒郷自治会

(黒郷地区地域推進計画策定委員会)

目 次

序章	推進計画の策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	土地利用, 道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2章	地区のまちづくりに関するアンケート調査結果の概要	7
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	17
1	地区の魅力・資源	17
2	地区の問題点・課題	19
4章	まちづくり推進計画	20
1	地区の将来像	20
2	まちづくりの基本方針	22
3	まちづくりの基本計画	23
4	推進計画の実行体制	29
資料	推進計画策定の取り組み	31

序章 推進計画の策定にあたって

1 推進計画策定の目的

黒郷地区は、広島空港、山陽自動車道三原久井インターチェンジ及びJR山陽新幹線三原駅に比較的近く、高速交通条件に恵まれています。また、久井支所、久井保健福祉センター、くい文化センター、久井図書館などの公共施設、スーパーマーケットが集積し、久井地域の中心的な役割を果たしています。

しかし、若年層を中心に人口が流出するとともに、高齢化・少子化が進行し、自治会をはじめとする各種団体の担い手が不足してきています。さらに、人口減少を背景として空き家が増加してきており、地区の活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力してまちづくりに取り組むことが一段と重要になっています。

このため、黒郷自治会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、住んでよかった黒郷・住んでみたい黒郷を目指して「黒郷地区まちづくり推進計画」の策定に取り組みました。

2 推進計画の役割

「黒郷地区まちづくり推進計画」は、黒郷自治会が地区内の各種団体などと連携して取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などでまちづくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民、大学生など多様な方からの幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 推進計画策定への取り組み

黒郷自治会では、役員と各種団体の代表者のみなさんとともに「黒郷地区地域推進計画策定委員会」を設置し、「黒郷地区まちづくり推進計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、住民（16歳以上）アンケート調査と黒郷地区まちづくり意見交換会（ワークショップ）を行いました。

4 推進計画の期間

推進計画の取り組み期間は、平成30(2018)年度～34(2022)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置

本地区は、三原市久井地域のほぼ中央に位置しています。

地区中心部（黒郷地区コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用した場合の所要時間は、三原市中心部（三原市役所）まで約30分です。また、広島空港まで約30分、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約10分、JR山陽新幹線・山陽本線三原駅まで約30分です。このように、本地区は、広域と連絡する高速交通条件に恵まれています。

図 黒郷地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、平成29(2017)年で284人になっており、過去5年間で23人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成29(2017)年で0～14歳32人、15～64歳129人、65歳以上123人になっており、高齢化率は43.3%です。

年齢別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳及び15～64歳は減少、65歳以上は増加となっています。

表 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H19 (2007)年	H24 (2012)年	H29 (2017)年	H24(2012)－ H19(2007)	H29(2017)－ H24(2012)
実 数	0～14歳	32	34	32	2	△ 2
	15～64歳	187	156	129	△31	△27
	65歳以上	114	117	123	3	6
	合 計	333	307	284	△26	△23
割 合	0～14歳	9.6	11.1	11.3	－	－
	15～64歳	56.2	50.8	45.4	－	－
	65歳以上	34.2	38.1	43.3	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、平成29(2017)年で111世帯になっており、過去5年間で2世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成29(2017)年で2.6人になっており、過去5年間で0.1人減少しています。

表 世帯数，世帯人員の推移

区 分	実 数			増減数	
	H19 (2007)年	H24 (2012)年	H29 (2017)年	H24(2012)－ H19(2007)	H29(2017)－ H24(2012)
世帯数（世帯）	111	113	111	2	△2
世帯人員（人）	3.0	2.7	2.6	△0.3	△0.1

注：世帯数は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

(3) 人口の将来見通し

平成24(2012)年から平成29(2017)年の住民基本台帳人口の推移が継続した場合の人口の将来見通しを推計すると、計画策定年次（平成29(2017)年）から10年後の平成39(2027)年には235人になり、平成29(2017)年と比較して約50人減少するものと見込まれます。

年齢3区分別人口をみると、各年齢層ともに減少するほか、高齢化率は平成39(2027)年には50%を超えるものと見込まれます。このように、人口減少及び少子化・高齢化が今後も進み、地区活力の一層の低下が懸念されます。

注：人口の将来見通しは、平成24(2012)年から平成29(2017)年の男女別5歳階級別の人口の推移率を求め、その推移率が将来も継続するものとして推計しました。
 (例：平成24(2012)年の女性の0～4歳人口5人→平成29(2017)年の女性の5～9歳人口4人の場合は、推移率が0.800になります。)

図 年齢別人口の将来見通し

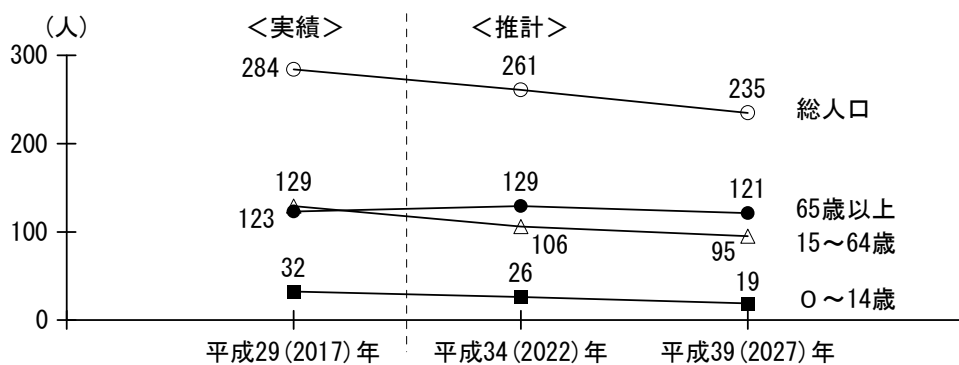
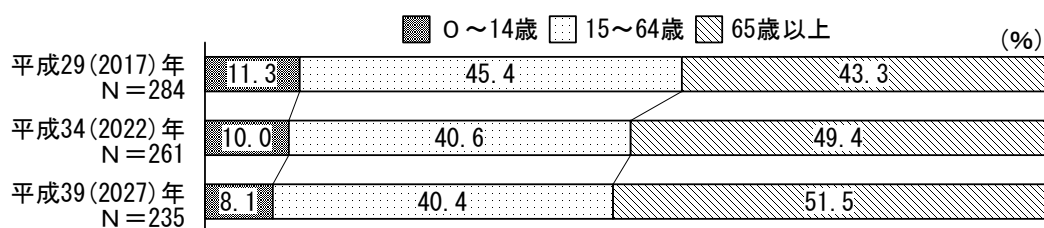


図 年齢別人口割合の将来見通し



3 土地利用，道路・交通

本地区は，南北に流れる泉川沿いに農地・集落が主に分布しており，その東西を山林が囲んでいます。

道路網は，(一)羽和泉室町線が南北に，(一)上徳良久井線が東西に走り，地区の中央で交差しており，この2路線が骨格道路になっています。この道路を通じて，三原市及び世羅町中心部，山陽自動車道久井インターチェンジ，広島空港と連絡しています。

公共交通機関としては，JR三原駅前と世羅町甲山及び大和地域下徳良を連絡しているバス路線があり，三原市中心部などと連絡しています。

4 主要公共公益施設等

本地区には，地区活動の拠点となっている黒郷コミュニティホームが地区中央にあります。

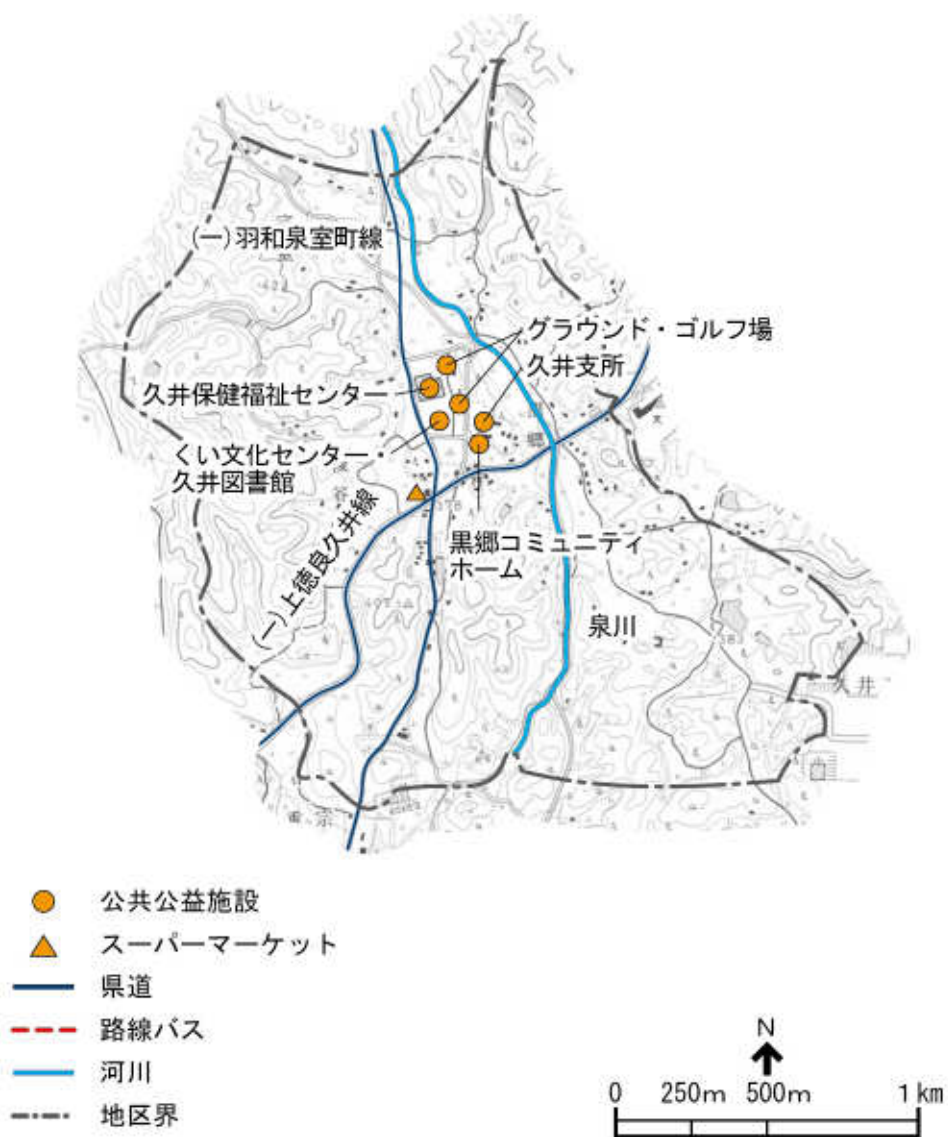
また，本地区は久井地域の行政，保健福祉，文化，スポーツの中心地で，久井支所，久井保健福祉センター，くい文化センター，久井図書館及びグラウンド・ゴルフ場などがあります。

さらに，スーパーマーケットなどの商店が立地しています。

表 黒郷地区の公共公益施設

区 分	名 称
集会施設	黒郷コミュニティホーム
行政施設	久井支所
保健福祉施設	久井保健福祉センター
文化施設	くい文化センター，久井図書館
スポーツ施設	グラウンド・ゴルフ場

図 黒郷地区の主要公共公益施設等



2章 地区のまちづくりに関するアンケート調査結果の概要

本調査は、住民（16歳以上）の方の意見を把握し、「黒郷地区まちづくり推進計画」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は206件でした。

1 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」49.5%、「女性」50.0%です。

年齢は、16～39歳10.2%、40～59歳27.7%、60～74歳36.9%、75歳以上24.3%です。

家族構成は、二世世代（子どもと同居+親と同居）が45.2%で最も割合が高くなっています。一方、「一人暮らし（65歳以上）」7.3%と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」16.5%を合わせた割合は2割以上です。

図 性別

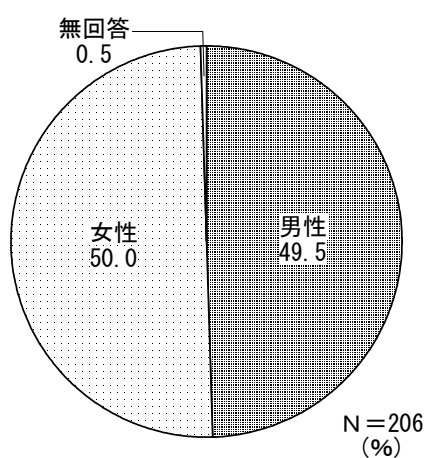


図 年齢

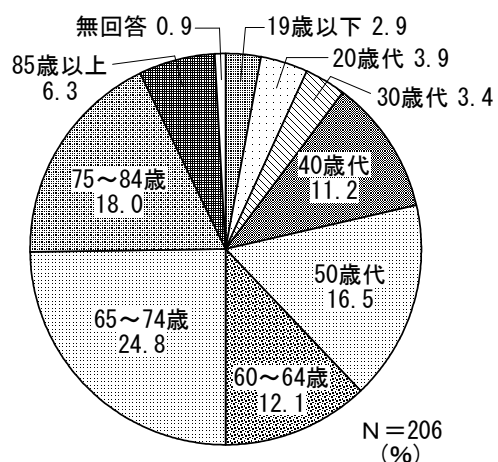
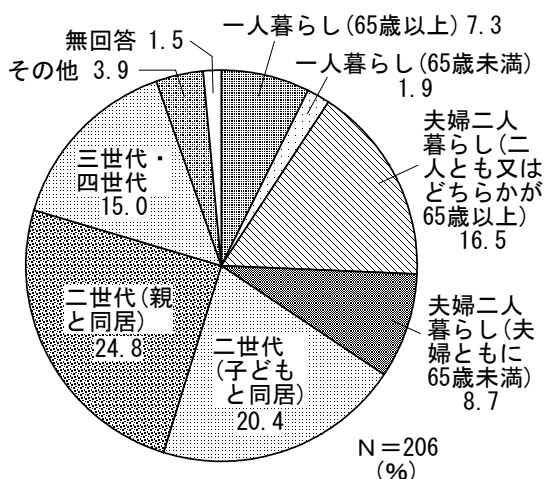


図 家族構成

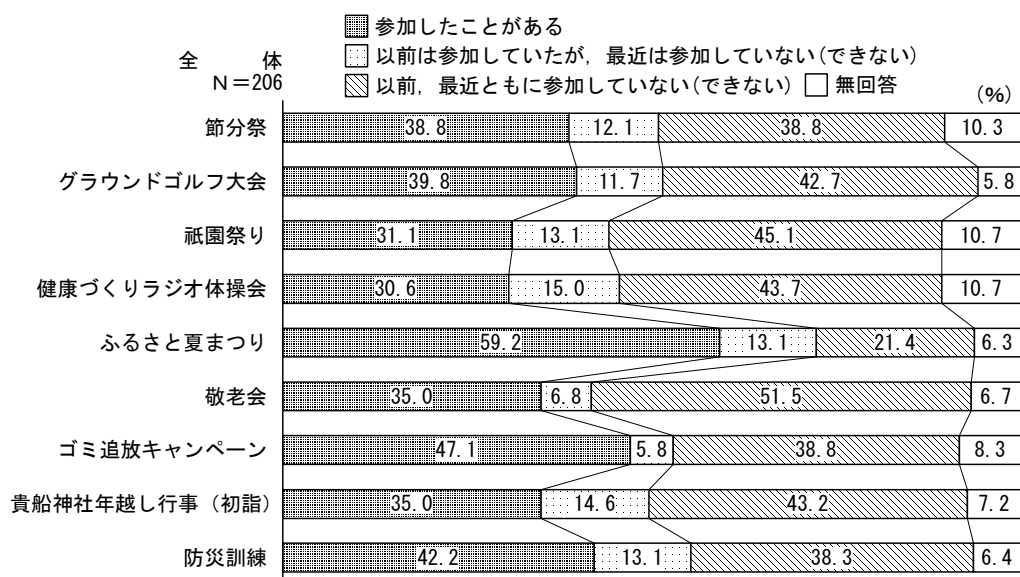


2 行事・活動への参加状況と満足度

(1) 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人は、「ふるさと夏まつり」が59.2%で最も割合が高く、次いで「ゴミ追放キャンペーン」47.1%、「防災訓練」42.2%の順で、これら3項目で4割以上になっています。その他では、「グラウンドゴルフ大会」39.8%、「節分祭」38.8%、「敬老会」及び「貴船神社年越し行事（初詣）」35.0%、「祇園祭り」31.1%、「健康づくりラジオ体操会」30.6%の順です。

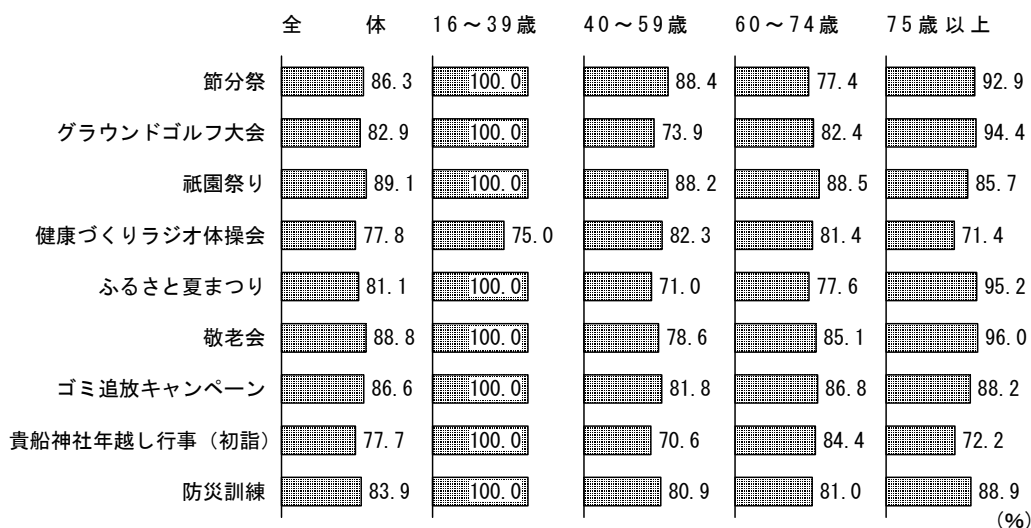
図 行事や活動への参加状況



(2) 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ「参加したことがある」と答えた人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、80%台7項目、70%台2項目で、各行事ともに満足度が高くなっています。

図 行事や活動の満足度



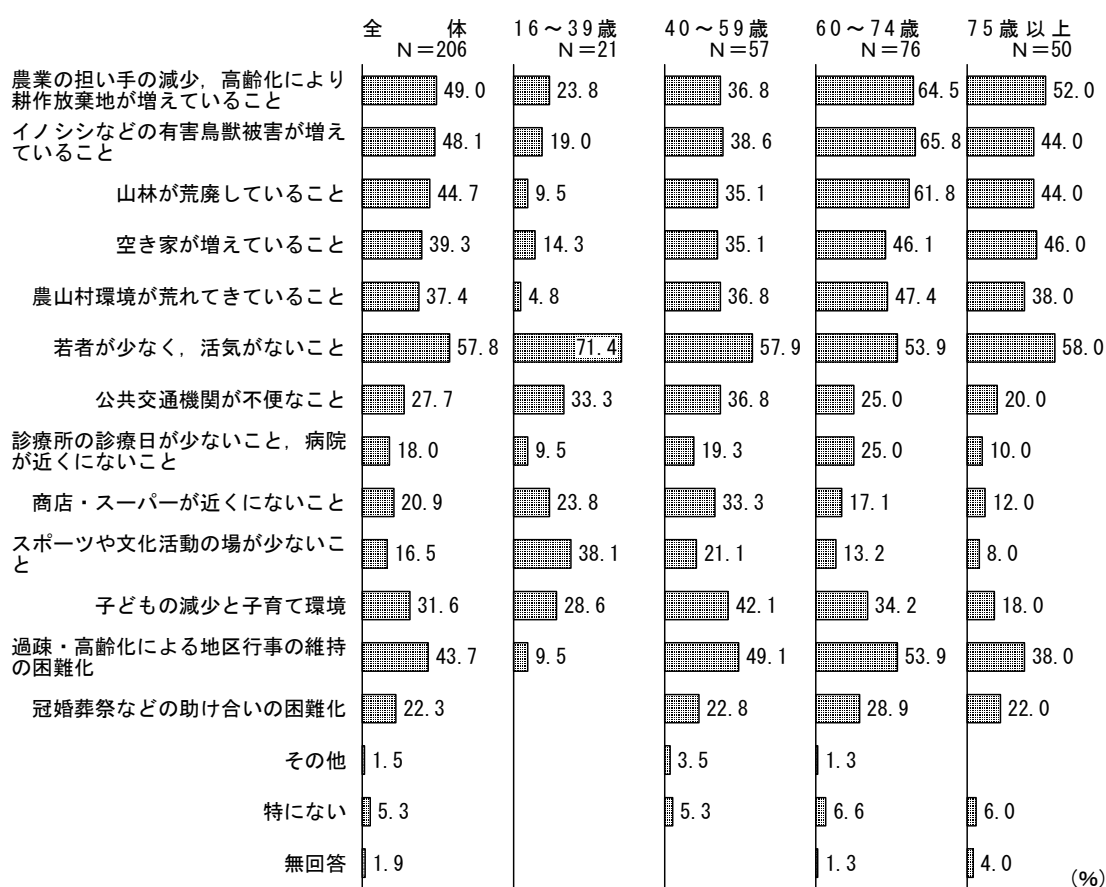
3 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居留意向

(1) 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「若者が少なく、活気がないこと」が57.8%で最も割合が高く、次いで「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」49.0%、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」48.1%、「山林が荒廃していること」44.7%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」43.7%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「空き家が増えていること」39.3%、「農村環境が荒れてきていること」37.4%、「子どもの減少と子育て環境」31.6%などの順です。

図 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(2) 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が53.4%で最も割合が高く、次いで「老後の生活、介護が必要になった時のこと」44.2%、「農地の維持・営農」33.0%、「草刈りなど共同作業への参加」29.1%、「山林の維持・管理」25.2%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「自宅の老朽化」23.3%、「会合への参加」19.9%、「通院手段」及び「収入・生計」19.4%、「家の後継ぎのこと」18.0%などの順です。

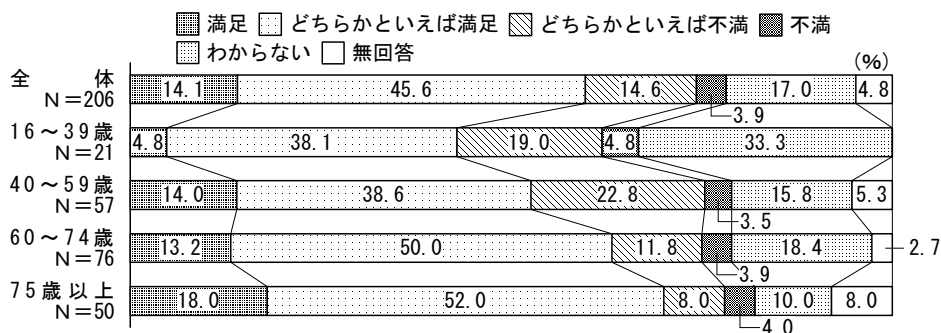
図 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(3) 地区の生活環境の評価

地区の生活環境については「満足」14.1%、「どちらかといえば満足」45.6%で、これらを合わせた生活環境に満足している人は約6割です。

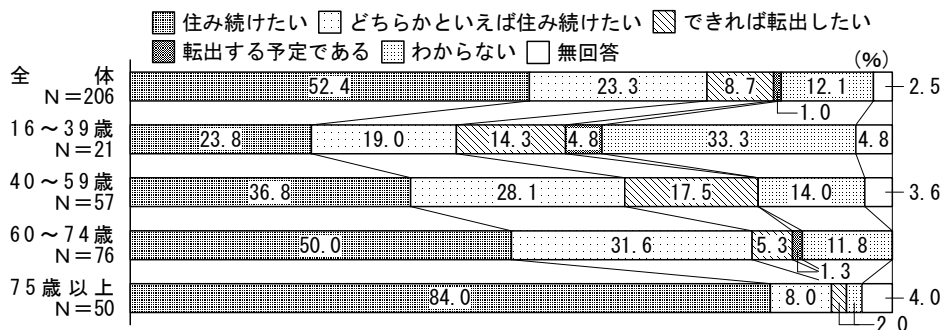
図 地区の生活環境の評価



(4) 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は「住み続けたい」52.4%、「どちらかといえば住み続けたい」23.3%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は7割以上です。地区の生活環境に満足している人は約6割ですが、地区へ住み続ける意向の人は7割以上になっています。

図 地区への今後の居留意向



(5) 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向の人の地区に住み続けたいと思う理由は、「先祖からの家や土地がある」が70.5%で最も割合が高く、次いで「長年住み慣れて愛着がある」62.8%、「自然環境が良い」45.5%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

(6) 地区を転出したいと思う理由

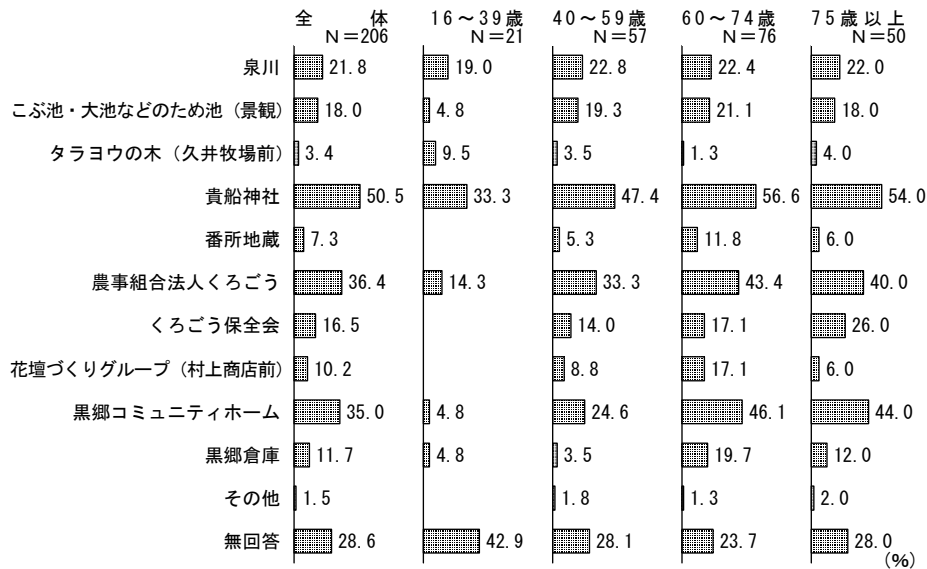
地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「交通条件が悪く不便」が65.0%で最も割合が高く、次いで「老後の生活に不自由である」55.0%、「買い物や通院に不便」50.0%の順でこれら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

4 今後のまちづくりについて

(1) 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「貴船神社」が50.5%で非常に高くなっています。その他では「農事組合法人くろごう」,「黒郷コミュニティホーム」が30%台です。

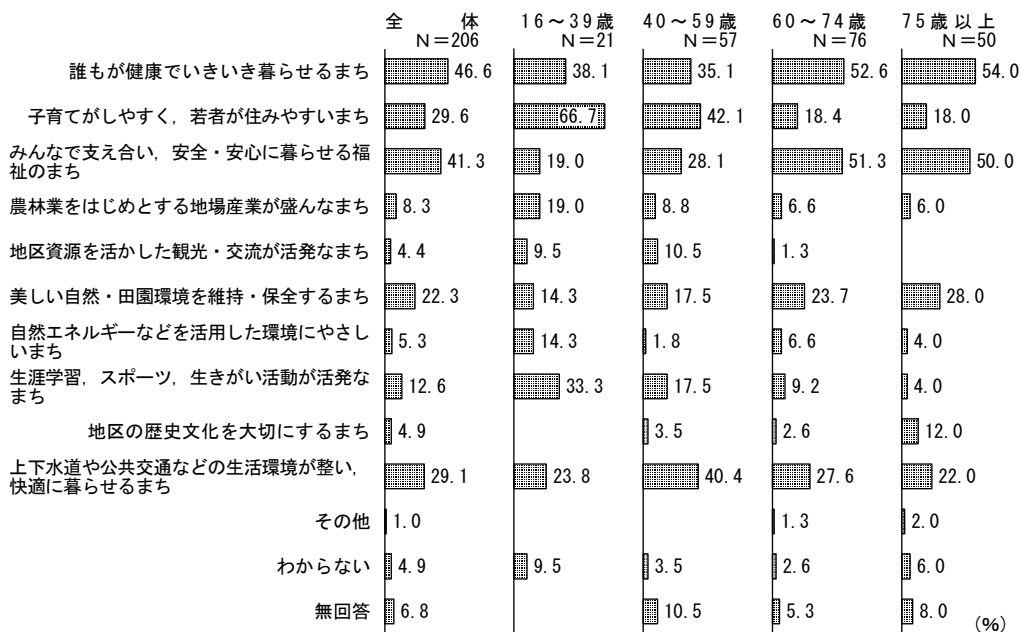
図 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



(2) 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」が4割以上、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」が約3割です。

図 地区の将来像（複数回答：3つ以内）

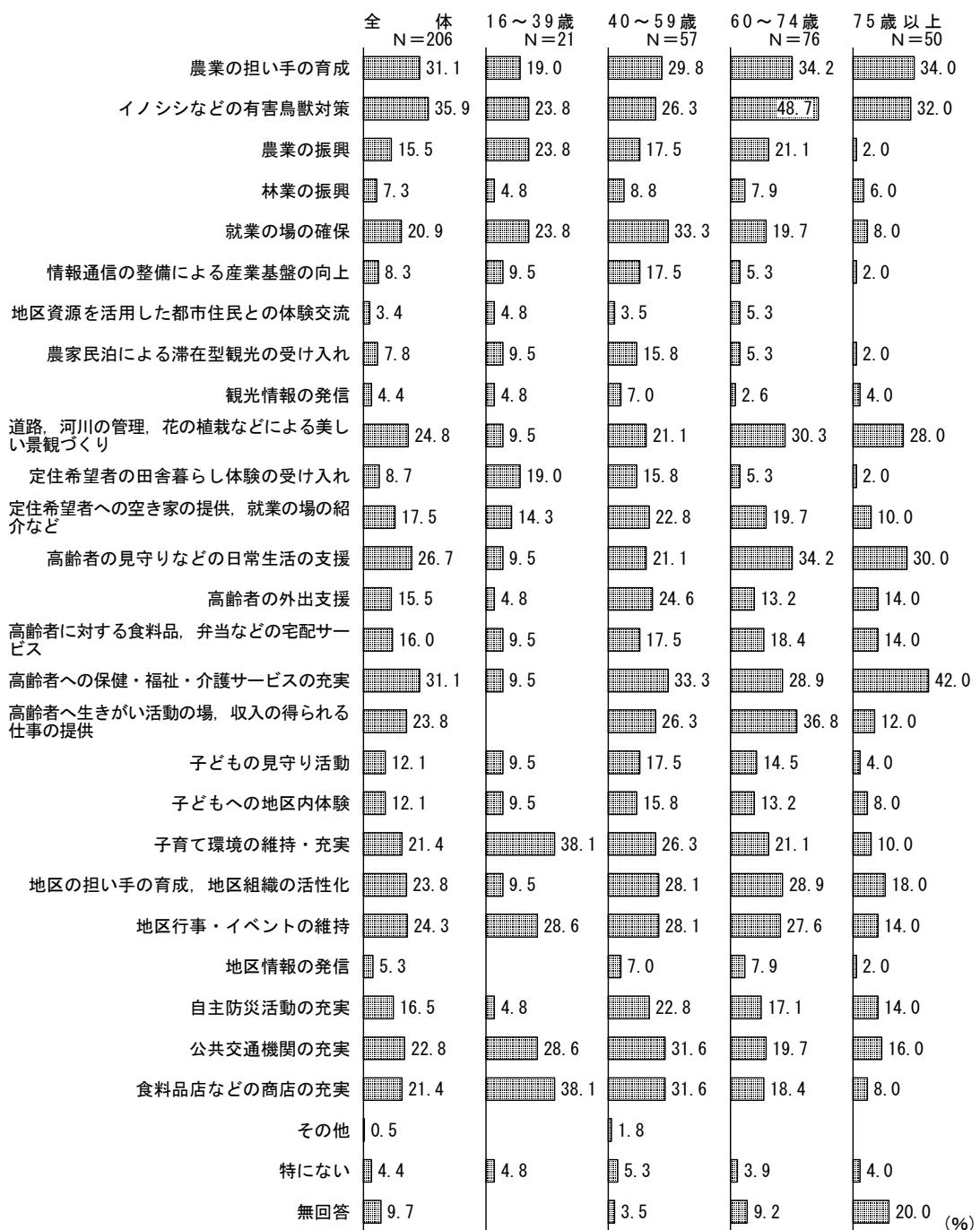


(3) 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が35.9%で最も割合が高く、次いで「農業の担い手の育成」及び「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」31.1%、「高齢者の見守りなどの日常生活の支援」26.7%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」24.8%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「地区行事・イベントの維持」24.3%、「高齢者へ生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」及び「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」23.8%、「公共交通機関の充実」22.8%、「子育て環境の維持」及び「食料品店などの商店の充実」21.4%などの順です。

図 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（複数回答：いくつでも）

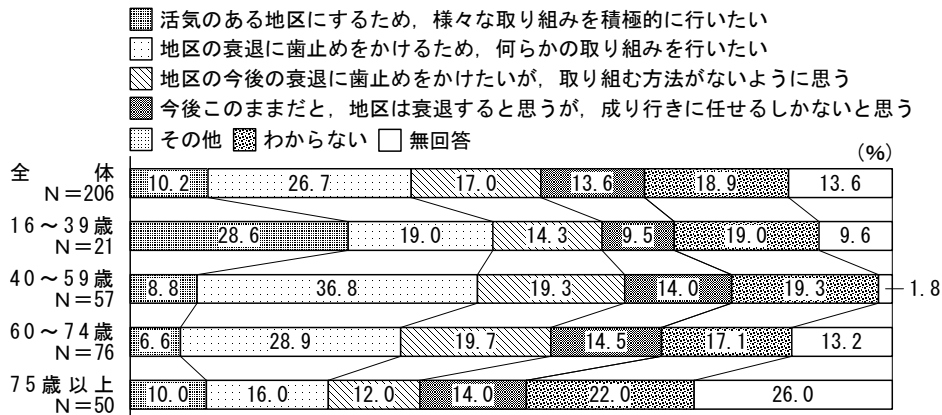


5 まちづくりへの参加について

(1) 地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」10.2%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」26.7%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は36.9%です。

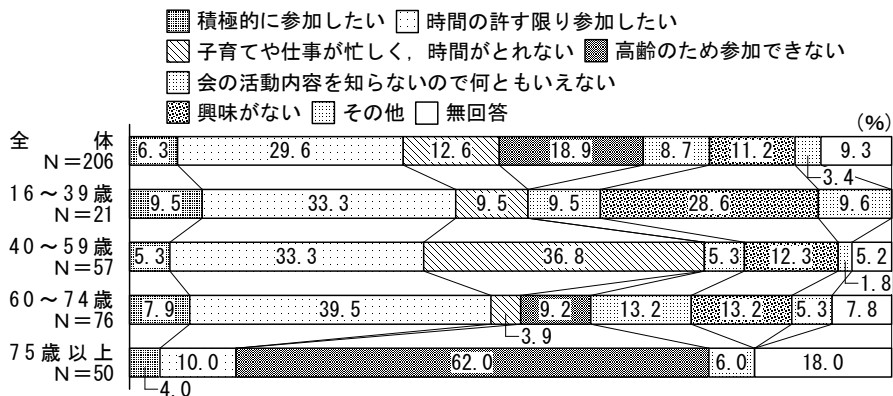
図 地区内会の活性化に向けての取り組み意向



(2) 自治会活動への参加意向

自治会活動への参加については、「積極的に参加したい」6.3%、「時間の許す限り参加したい」29.6%で、これらを合わせた自治会活動へ参加意向のある人は35.9%です。

図 自治会活動への参加意向



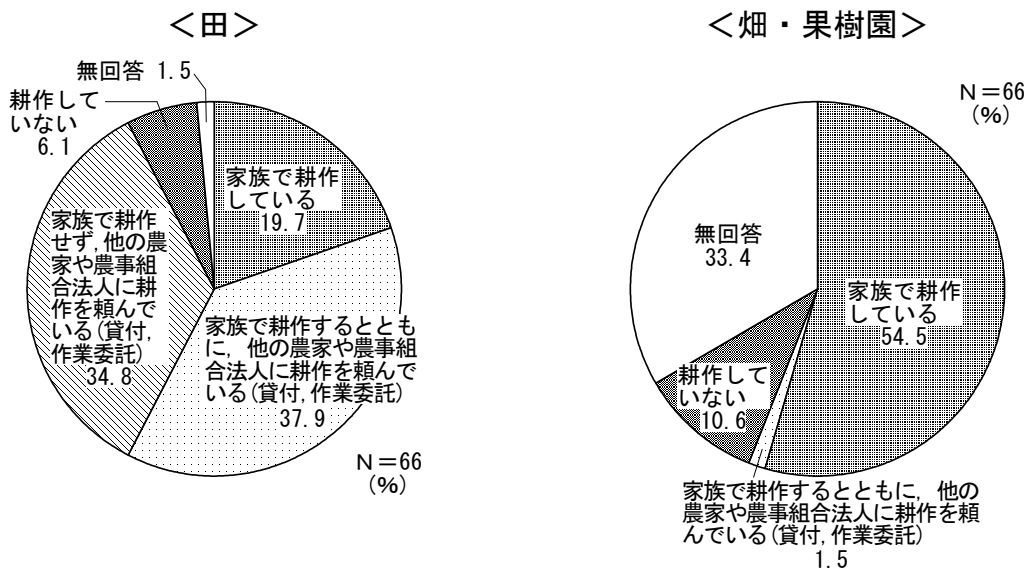
6 農地の耕作状況と今後の耕作意向（農家の世帯主の回答）

(1) 農地の現在の耕作状況

田の現在の耕作状況は、「家族で耕作するとともに、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」37.9%、「家族で耕作せず、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」34.8%で、他の農家や農事組合法人に頼んでいる世帯が7割以上です。

また、畑・果樹園の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」が54.5%で、回答した人の大部分を占めています。

図 耕作状況

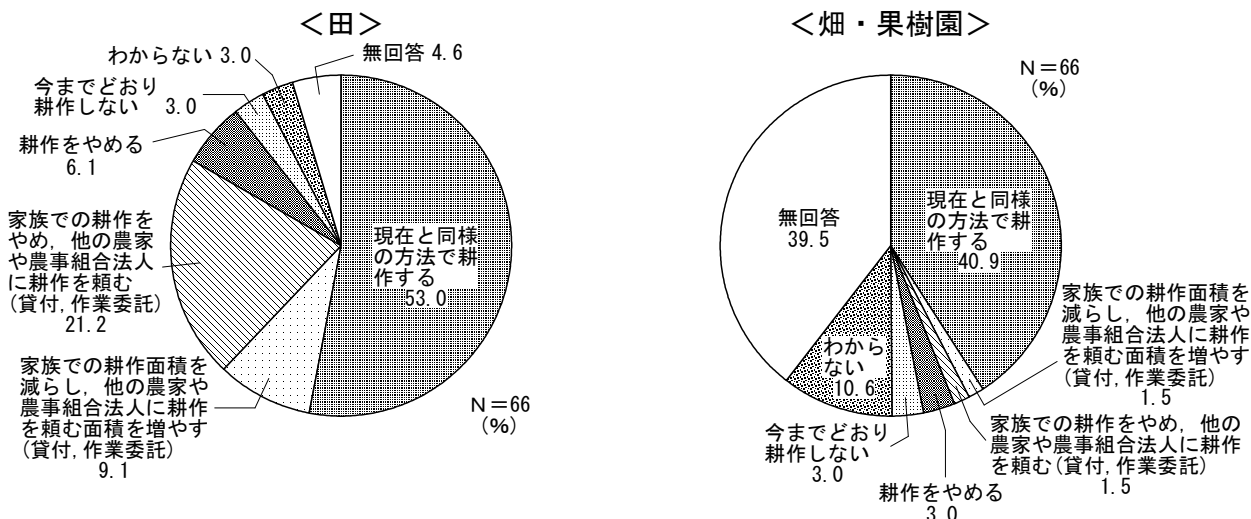


(2) 農地の今後の耕作意向

田の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が53.0%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作をやめ、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む（貸付、作業委託）」21.2%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」9.1%、「耕作をやめる」6.1%などの順です。

また、畑・果樹園の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が40.9%で、回答した人の大部分を占めています。

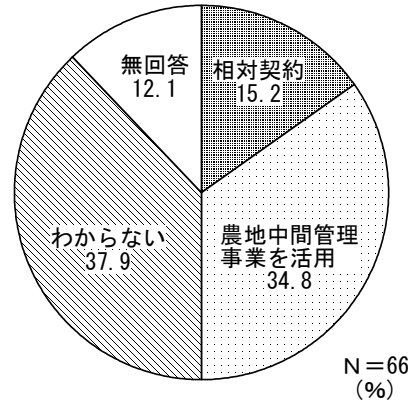
図 今後の耕作意向



(3) 耕作の依頼先

耕作の依頼先としては「わからない」が37.9%と最も割合が高く、次いで「農地中間管理事業の活用」34.8%、「相対契約」15.2%の順です。

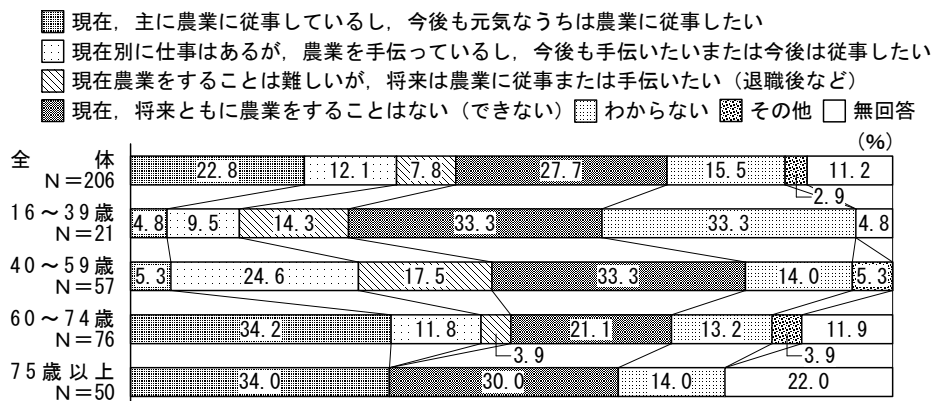
図 耕作の依頼先



7 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向

住民の方の農業への現在の従事状況及び今後の従事意向は、「現在、主に農業に従事しているし、今後も元気なうちは農業に従事したい」22.8%、「現在別に仕事はあるが、農業を手伝っているし、今後も手伝いたいまたは今後は従事したい」12.1%、「現在農業をすることは難しいが、将来は農業に従事または手伝いたい（退職後など）」7.8%で、現在農業に従事または手伝っている人が34.9%、今後農業に従事または手伝う意向の人が42.7%です。

図 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向



3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

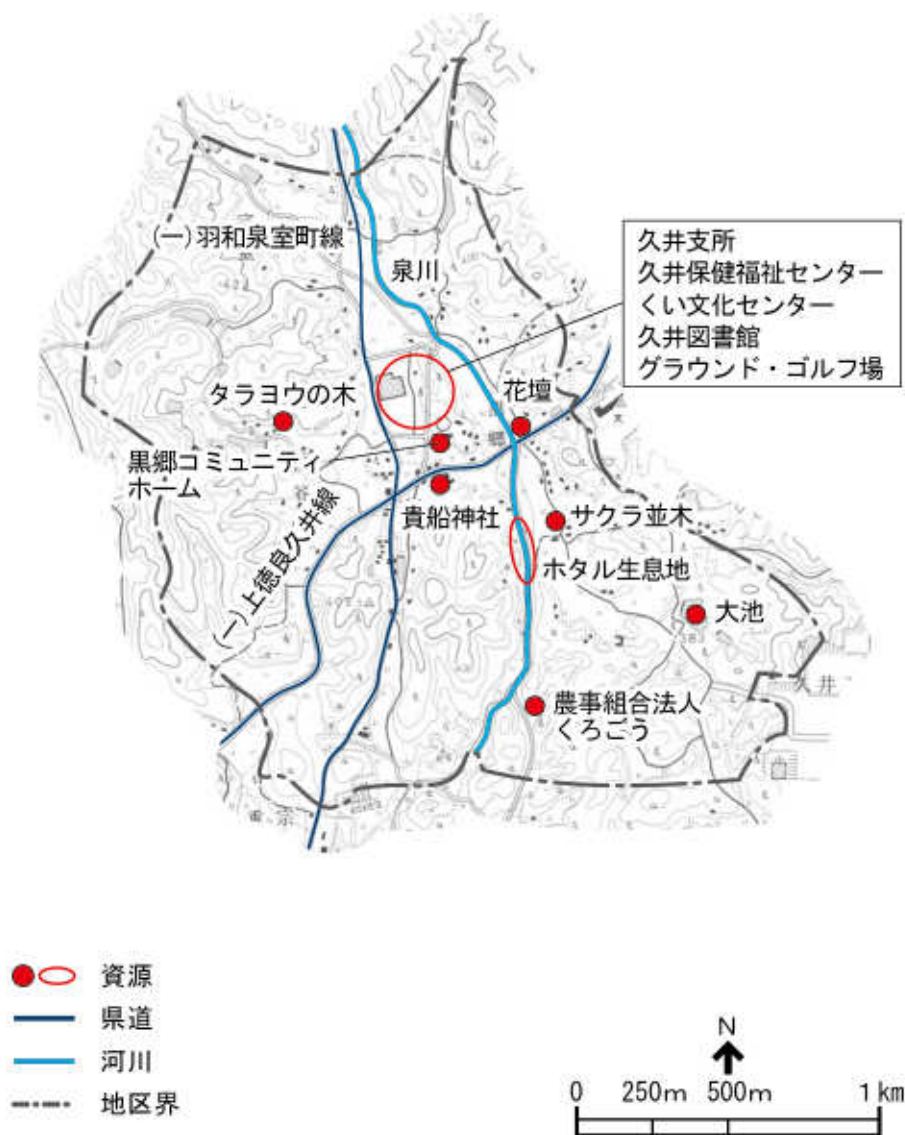
1 地区の魅力・資源

地区のまちづくりに関するアンケート調査結果及びまちづくり意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区分	魅力・資源
立地条件 交通条件	<ul style="list-style-type: none"> ・広島空港，山陽自動車道三原久井インターチェンジ，山陽新幹線三原駅に比較的近く，高速交通条件に恵まれた地区 ・三原市及び世羅町中心部に近く，日常生活が比較的便利な地区
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・泉川と美しい田園景観 ・大池などのため池 ・タラヨウの木（市指定の天然記念物） ・サクラ並木（下組集会所前） ・ホタルの生息 ・ヒョウモンモドキの生息
歴史文化 資源	<ul style="list-style-type: none"> ・貴船神社，祇園祭り，祇園踊り ・盆踊り ・番所地蔵（22か所）
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> ・農事組合法人くろごう ・米，大豆などの農産物 ・じゅんさい（ため池に自生）
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が少なく，安全に暮らせる地区 ・久井地域を対象とした公共施設（久井支所，久井保健福祉センター，くい文化センター，久井図書館，グラウンド・ゴルフ場）の集積 ・地区活動の拠点となっている黒郷コミュニティホーム ・スーパーマーケットなどの商店の立地
地区活動	<ul style="list-style-type: none"> ・道路沿いの花壇 ・ふれあい・いきいきサロン活動 ・節分祭り，ふるさと夏まつりなどの行事

図 地区の資源



2 地区の問題点・課題

地区のまちづくりに関するアンケート調査結果及びまちづくり意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

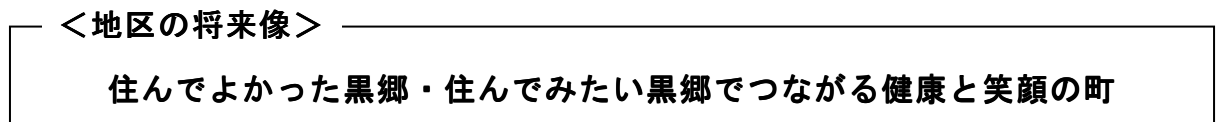
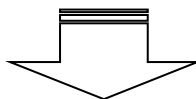
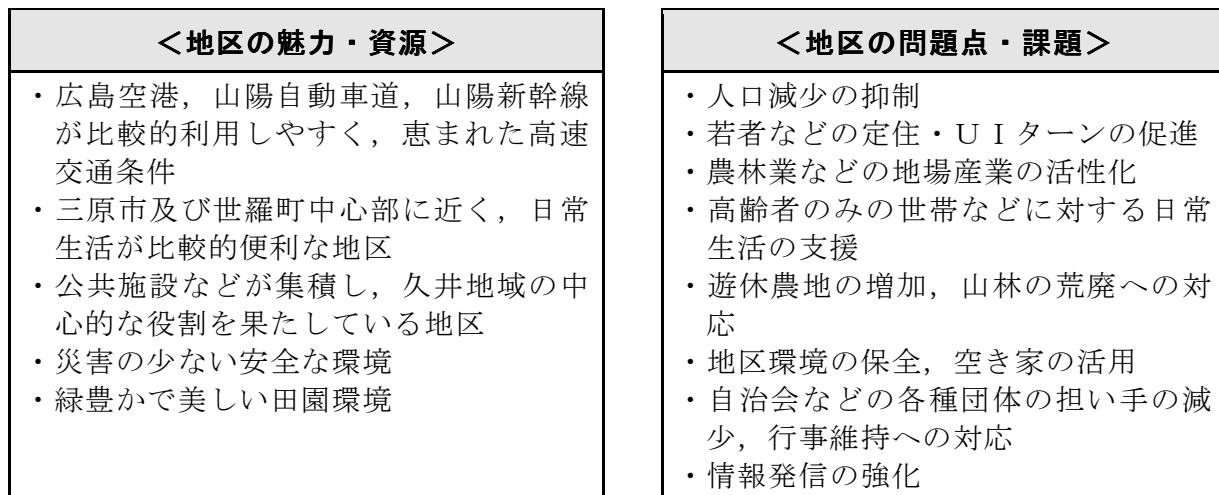
区分	問題点・課題
高齢者などの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし、高齢者のみの世帯の増加、自立した日常生活の不安 ・高齢者、障害者の相談、交流の場の不足 ・高齢者の介護予防、健康維持対策の充実 ・自家用車を運転できない人の外出手段の確保（買い物、通院等） ・元気な高齢者の活動の場の拡充（生きがい活動、仕事） ・ふれあい・いきいきサロン参加者の拡大、男性参加者の確保 ・高齢者に対する犯罪、悪質な訪問販売被害の防止
人口減少・若者定住・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・若者、子どもの減少、活力の低下 ・後継ぎの減少 ・若者の就業の場の不足 ・若者に魅力のない生活環境 ・子どもの遊び場の不足
農林地・農林業等の産業	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣被害の増加 ・耕作放棄地の増加、不十分な農地管理 ・農事組合法人活動の維持、農事組合法人に対する住民の協力の維持 ・農業後継者の不足、若者の農業への関心の低下 ・山林の放置、荒廃 ・観光・交流資源が乏しく、世羅町への通過点、町外からの誘客が難しい
生活環境	<p><自然，農村環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然，農村環境の保全 ・ヒョウモンモドキなどの動植物の保護 ・環境保全体制（草刈り等）の維持，強化 <p><生活環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線は2路線あるが便数が少なく不便 ・地区で日曜日の買い物ができない（スーパーマーケットが休み） ・食事場所がない ・集積している公共公益施設の活用が不十分 ・医療機関が近隣に少ない ・空き家の増加 ・飲料水の確保（上水道が未整備） ・生活道路が未整備
地区行事・地区活動	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化の継承，資源の活用が不十分 ・貴船神社の管理負担の増大，神楽殿の老朽化 ・行事への関心の低下，参加者の減少（特に，若者，子ども） ・各種行事のマンネリ化 ・減少している祇園踊り，盆踊りの担い手確保（伝統の見直し） ・行事などのスタッフの固定化，負担の増大（特に女性グループ） ・人口減少，高齢化の中で，地区活動への住民個々の負担の増大 ・自治会，貴船会，和老会などの各種団体への住民の参加意欲が乏しい ・地区内の各種団体の連携が不十分 ・地区情報の発信不足

4章 まちづくり推進計画

1 地区の将来像

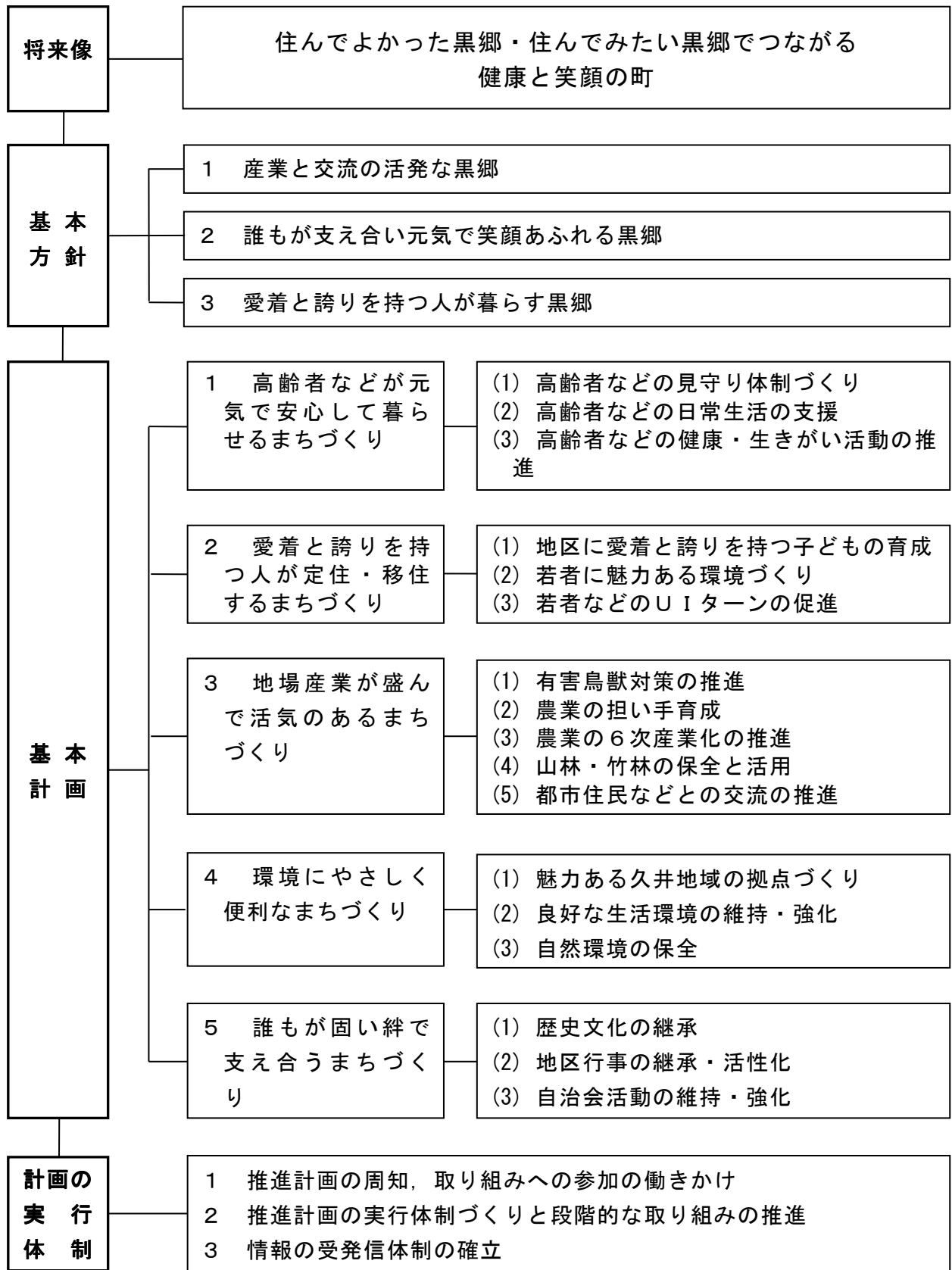
地区の将来像は、本地区の魅力・資源や問題点・課題などを踏まえて、“住んでよかった黒郷・住んでみたい黒郷でつながる健康と笑顔の町”を掲げます。

図 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けたまちづくりの体系は次のとおりです。

図 まちづくりの体系



2 まちづくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つのまちづくりの基本方針を掲げます。

1 産業と交流の活発な黒郷

基盤整備済みの農地の保全と農業の振興，豊かな山林の保全と活用，地区資源を活用した地区出身者，都市出身者などとの交流の推進などに取り組み，産業と交流の活発な黒郷の実現を目指します。

2 誰もが支え合い元気で笑顔あふれる黒郷

公共公益施設や商店などが集積して便利な生活環境（久井地域の中心地）の維持，活用を図るとともに，高齢者のみの世帯などの暮らしの支援，住民相互及び各種団体の交流活動の推進などに取り組み，誰もが支え合い元気で笑顔あふれる黒郷の実現を目指します。

3 愛着と誇りを持つ人が暮らす黒郷

地区へ愛着を持つ子どもの育成，空き家・遊休農地を活かしたUIターンの促進，地区の自然，歴史文化の学習の推進などに取り組み，愛着と誇りを持つ人が多く暮らす黒郷の実現を目指します。

3 まちづくりの基本計画

地区の将来像及びまちづくりの基本方針を踏まえて、まちづくりの基本的方向とそれぞれの取り組み事項を掲げます。

取り組み事項の内容は、地区のまちづくりに関するアンケート調査結果、まちづくり意見交換会（ワークショップ）、黒郷地区地域推進計画策定委員会における意見などのうち、自治会をはじめとする各種団体及び住民が取り組みの主体になる事項をとりまとめました。

1 高齢者などが元気で安心して暮らせるまちづくり

高齢者、障害者の見守り、日常生活の支援、健康・生きがいづくりなどを地区全体で推進し、高齢者などが元気で安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

(1) 高齢者などの見守り体制づくり

- ・一人暮らしまたは高齢者のみで生活している世帯について、犯罪、悪質な訪問販売被害などから守るとともに、高齢者の日常生活の変化（認知症への対応）を適切に把握、対応するため地域支援員、民生委員・児童委員、社会福祉協議会などと連携して見守り体制づくりに取り組みます。
- ・近隣住民による見守りを充実するため、見守りボランティアの確保、育成に取り組みます。

(2) 高齢者などの日常生活の支援

- ・支援を必要とする高齢者などのニーズを把握し、困りごとなどへの支援に取り組みます。
- ・車を運転できない高齢者などの通院や買い物などの支援に取り組みます。
（住民の自家用車での送迎、買い物代行等）

(3) 高齢者などの健康・生きがい活動の推進

ア ふれあい・いきいきサロンの充実

- ・2ヶ所で開催しているふれあい・いきいきサロンの活性化を図るため、住民へのPRの強化及び支援者の確保に取り組みます。
- ・高齢者の交流を一層推進するため、黒郷コミュニティホームで2つのふれあい・いきいきサロンの合同開催に取り組みます。

<合同ふれあい・いきいきサロンのプログラム例>

春：ウォーキング，健康体操

夏：世代間交流，ラジオ体操（夏休み中）

秋：ウォーキング，カラオケ

冬：グラウンド・ゴルフ，料理教室

- ・ふれあい・いきいきサロンへの男性の参加を促進するプログラムづくりに取り組みます。
- ・将来的には、黒郷コミュニティホームがいつも開放され、誰もが何時でも交流できるサロンづくりに取り組みます。

イ 健康づくり

- ・黒郷コミュニティホームなどを活用し、高齢者をはじめ住民全体の健康づくり（健康体操、健康づくりラジオ体操会の拡充、グラウンド・ゴルフの実施等）に取り組みます。
- ・地区資源（花壇、番所地蔵等）、四季の変化、健康状態などに配慮した様々なウォーキングコースづくりと案内パンフレットの作成及び周知に取り組みます。
- ・様々なウォーキングコースを活用して、定期的にウォーキング大会を開催するほか、こうした大会の情報を地区外に発信することにより広域からの参加を促進します。

ウ 交流、憩いの場づくり

- ・黒郷コミュニティホームを活用し、高齢者をはじめとする地区住民の様々な交流、生きがい活動の推進に取り組みます。（世代間交流、サークル活動等）

2 愛着と誇りを持つ人が定住・移住するまちづくり

地区に愛着を持つ子どもの育成，親子が自然体験，交流できる広場の整備，若者に魅力ある環境づくり及び若者などのU Iターンの促進などを通じて，地区に愛着と誇りを持つ人が定住・移住するまちづくりに取り組みます。

(1) 地区に愛着と誇りを持つ子どもの育成

ア 地区に愛着と誇りを持つ子どもの育成

- ・子どもへ自然，歴史文化，農林業など各分野の体験機会の提供により，地区に愛着と誇りを持つ子どもの育成に取り組みます。
 - ・農事組合法人などと連携した農業体験の提供，レンゲ祭りの復活
 - ・自然観察学習会の開催（ホタルの育成・観察，動植物等の学習・観察・保護）
 - ・黒郷地区の行事，歴史文化，昔遊びなどに関する親子学習会の開催，次世代への伝承
- ・若者が地区での生活を懐かしみ，Uターンのきっかけになるように「20歳の思い出アルバムづくり（地区主催の祝賀会）」の開催に取り組みます。

イ 親子自然体験交流広場の整備

- ・子どもの自然体験，保護者相互の交流を促進する場として，里山を活用した親子自然体験交流広場の整備・運営（アクセスしやすい里山の確保，計画づくり，樹木の伐採・整地，手づくり遊具の設置，遊び方教室及びイベントの開催等）に取り組みます。

(2) 若者に魅力ある環境づくり

- ・地区の若者，子育て世帯が交流できるサロンづくりに取り組みます。
- ・子ども，若者が地区行事の担い手として参加する機会を確保し，地区に対する愛着を育むとともに世代間の交流の推進に取り組みます。

(3) 若者などのU Iターンの促進

- ・地区の魅力（災害が少なく安全な生活環境，広島空港，山陽自動車道，山陽新幹線の利用が便利な交通条件，公共施設などの集積，恵まれた教育環境（小中学校に隣接）等）をインターネットなどで発信し，若者などのU Iターンを促進します。
- ・空き家の調査，所有者の意向把握，三原市の空き家バンクと連携した情報の発信，移住希望者への相談支援などにより，若者などのU Iターンを促進します。

3 地場産業が盛んで活気のあるまちづくり

有害鳥獣対策の推進，農業の担い手の育成，農業の6次産業化の推進などによる農地の保全と農業の振興，荒廃が進んでいる山林・竹林の保全と活用，都市住民などとの交流の推進などを通じて，地場産業が盛んで活気のあるまちづくりに取り組みます。

(1) 有害鳥獣対策の推進

- ・イノシシなどの有害鳥獣被害の軽減を図るため，狩猟免許及び罟設置免許の取得支援などに取り組みます。
- ・有害鳥獣対策の勉強会の開催，共同防護柵の設置などの対策に取り組みます。

(2) 農業の担い手育成

- ・地区の農業を担う農事組合法人の体制強化，活性化の支援に取り組みます。
- ・若者の農業への関心を高めるため，農業団体と連携して農業のPR，農業研修の場の提供に取り組みます。

(3) 農業の6次産業化の推進

- ・農事組合法人などと連携して，ヒメノモチの生産，ため池を活用したじゅんさいの栽培，地元農産物（大豆）の加工，ブランド化に取り組みます。
- ・農業収益の増収を図るため，農産物直売所（米，野菜，和牛，山菜，漬物，味噌等）の設置，運営に取り組みます。また，地区の食文化（赤飯，押し寿司等）を継承，PRするために，農産物直売所と一体的にふるさと茶屋（農家レストラン）の設置，運営に取り組みます。
- ・畜産農家と連携して，乳製品の開発，農業体験交流の場づくりなどに取り組みます。

(4) 山林・竹林の保全と活用

- ・豊富にある竹を活用して，竹炭，竹搾酢液などの製造，販売に取り組みます。
- ・マツタケ山の再生に取り組むことを検討します。

(5) 都市住民などとの交流の推進

- ・地区の自然，歴史文化，産業資源の掘り起こし，PR冊子及び看板の作成，散策コースづくり，ガイドの育成などに取り組み，都市住民などとの交流を推進します。
- ・大池などのため池へ生息するブラックバス，ブルーギルを活かし，スポーツフィッシングの場としてルール・環境を整備し，釣り人の誘客に取り組みます。
- ・農産物直売所及びふるさと茶屋（農家レストラン）において特産品，郷土料理などの提供を行うなど，温かいもてなしに取り組みます。

4 環境にやさしく便利なまちづくり

本地区は久井地域の中心的な役割を担っており、こうした役割の維持・強化、自然環境の保全などを通じて、環境にやさしく便利なまちづくりに取り組みます。

(1) 魅力ある久井地域の拠点づくり

- ・本地区の主要な道路である(一)上徳良久井線の黒郷橋からスーパーマーケットに至る間のフラワーロードづくりに取り組みます。
 - ・黒郷橋北の花壇の整備
 - ・道路沿いへ芙蓉、ひまわりなどの四季の花の植栽
- ・フラワーロードづくりと併せて、久井保健福祉センター及びくい文化センター周辺、貴船神社の社寺林にサクラなど花木を植栽し、名所づくりに取り組みます。
- ・泉川の河川清掃、河床土砂の除去などにより、親しみのある河川環境づくりに取り組みます。
- ・フラワーロードづくり及び花木の名所づくり、泉川の河川環境の整備などにより、地区住民、買い物客、公共施設利用者などが集い、活発に交流する場づくりを目指します。

(2) 良好な生活環境の維持・強化

- ・黒郷コミュニティホームを利用しやすくするため設備及び備品の充実に取り組みます。
- ・地区内商店（スーパーマーケット等）の維持・活性化に向けて、支援イベントの開催、地区内商店買い物デーの設定などの応援に取り組みます。
- ・地区内にある久井保健福祉センター、くい文化センター、久井図書館、グラウンド・ゴルフ場など地区資源を活用した行事づくりに取り組みます。
（くい文化センター、久井図書館駐車場を活用した軽トラック市の開催等）
- ・地区内の空き家の活用（農産物販売所、ふるさと茶屋（農家レストラン）、カフェ等）に取り組むとともに、老朽空き家については三原市と連携して所有者へ適切な対応を働きかけます。

(3) 自然環境の保全

- ・ヒョウモンモドキをはじめとする昆虫、野鳥などの保護、自然生態系の観察の場づくりに取り組みます。
- ・ホタルが生息している一帯の環境を整備し、ホタルの保護・育成に取り組みます。
- ・タラヨウの木の保護に取り組みます。

5 誰もが固い絆で支え合うまちづくり

地区の歴史文化を継承するとともに、地区行事の継承・活性化、自治会活動の維持・強化などを通じて、誰もが固い絆で支え合うまちづくりに取り組みます。

(1) 歴史文化の継承

- ・地区の歴史文化の掘り起こし，学習，次世代への継承に取り組みます。
 - ・番所地蔵，貴船神社などの調査，その他資源の発掘
 - ・地区資源マップの作成，歴史文化学習会の開催
 - ・番所巡りなどの歴文化散策コースづくりとウォーキング大会の開催
- ・祇園祭りの踊り，ふるさと夏まつりの盆踊りを次世代に引き継ぐために，担い手として子ども，女性，地区出身者などの幅広い参加を検討するとともに，定期的な練習会の開催など継承体制づくりに取り組みます。
- ・貴船神社の管理体制の充実と老朽化している神楽殿の整備支援に取り組みます。
(住民の寄付，クラウドファンディング，補助金の活用等)

(2) 地区行事の継承・活性化

ア 既存行事の見直し，活性化

- ・人口減少，高齢化の進行に伴い地区行事を維持する上で住民の負担が増していることから，行事の総合的な見直し（維持する行事の絞り込み，負担の軽減，行事の魅力化，参加の促進等）に取り組みます。
- ・地区で最も参加者の多いふるさと夏まつりの魅力向上に取り組みます。
- ・壮年会主催の節分祭について保育所，小学生の参加を働きかけるとともに，鬼面・小道具の充実，PRの強化などを通じて魅力向上を図ります。

イ 新規の行事づくり

- ・就学前の子ども及び小学生が主役で参加できる行事づくりに取り組み，子育て世帯の参加を促進します。
- ・地区外から集客できる魅力ある行事づくり（地区運動会，レンゲ祭り，花見等）に取り組みます。

ウ 担い手育成

- ・地区行事のスタッフとして，中高生，若者の参加促進に取り組みます。
- ・隣接する久井小学校，久井中学校との連携を図り，行事の盛り上げに取り組みます。

(3) 自治会活動の維持・強化

- ・役員負担を軽減し，地区全体で協力する体制づくりに取り組みます。
- ・若者の参加を促進するとともに，若者の意見を尊重し，経験者（高齢者）は温かく見守る体制づくりを目指します。
- ・担い手不足に対応するため，地区出身者，都市住民，大学生などの参加と応援を働きかけます。
- ・草刈り（農地の畔，道路，公共用地）を効果的に行うため，地区全体の組織づくりに取り組みます。

4 推進計画の実行体制

(1) 推進計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

- ・住民へあらゆる機会を通じて「黒郷地区まちづくり推進計画」を周知するため，計画書及び概要版の全戸配布，各種団体の会合などで「黒郷地区まちづくり推進計画」の説明を行うほか，今後のまちづくり活動への参加を働きかけます。

(2) 推進計画の実行体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 推進計画の実行体制づくり

- ・地区づくりへの当事者意識を住民一人ひとりが持つように働きかけるとともに，住民の幅広い参加によるまちづくり実行体制を確立します。特に，女性と若者の積極的な参加を働きかけます。
- ・本地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・推進計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

<重点的に取り組む事業の候補>

- ・ふれあい・いきいきサロンの合同開催（年4回）事業
- ・親子自然体験広場整備事業
- ・竹炭・竹搾酢液などの竹製品の特産品づくり事業
- ・軽トラック市の開催，農産物直売所，ふるさと茶屋（農家レストラン）設置・運営事業
- ・魅力ある久井地域の拠点づくり（景観づくり）事業
- ・祇園踊り・盆踊り継承事業

ウ 取り組みへの多様な担い手確保，人材育成

- ・住民，各種団体，地元企業などとの連携を強化します。
- ・地区出身者，都市住民，大学生などの参加と応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内への情報発信

- ・地区情報の周知，共有を図るため，自治会便りの発行などに取り組みます。
- ・若者などに対し，インターネットを活用した情報の発信に取り組みます。

イ 地区外への情報発信

- ・インターネットを活用した黒郷地区の情報発信体制づくりを行い，地区出身者，都市住民，大学生などに対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー），空き地・空き家情報などを発信することにより，交流を推進します。

ウ 人材の確保

- ・黒郷地区のホームページなどを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 推進計画策定の取り組み

1 黒郷地区地域推進計画策定委員会委員名簿

番号	名 前	役 職	所属団体
1	小迫 信幸	委員長	黒郷自治会会長
2	廣近 哲二	副委員長	黒郷自治会副会長・23農区長
3	倉橋 秀子	事務局長	黒郷自治会会計
4	村上 敏行	委 員	黒郷自治会文化体育部長・29農区長
5	大久保 一敏	委 員	黒郷自治会環境福祉部長・30農区長
6	山崎 隆義	委 員	黒郷自治会24農区長
7	實光 孝之	委 員	黒郷自治会25農区長
8	小出 豊三郎	委 員	黒郷自治会26農区長
9	角谷 茂	委 員	黒郷自治会文化体育副部長・27農区長
10	東 雪江	委 員	黒郷自治会28農区長
11	七川 利昭	委 員	黒郷自治会31（イ）農区長
12	場正 サツコ	委 員	黒郷自治会31（ロ）農区長
13	平畑 幸男	委 員	黒郷自治会31（ハ）農区長
14	村上 功	委 員	久井稲生神社黒郷担当
15	村上 恵	委 員	貴船神社担当・黒郷自治会環境福祉副部長
16	小原 一晃	委 員	黒郷和老会会長
17	大崎 恒生	委 員	農事組合法人くろごう代表
18	奥村 雅彦	委 員	黒郷貴船会会長
19	小出 国登	委 員	黒郷貴船会副会長
20	小出 愛子	委 員	黒郷女性グループ会長
21	實森 尚美	委 員	黒郷女性グループ副会長
22	岡田 有二	委 員	黒郷子ども会育成会会長
23	大久保 和通	委 員	黒郷子ども会育成会副会長
24	奥村 恭平	委 員	三原市消防団羽和泉分団第二部

2 黒郷地区まちづくり意見交換会（ワークショップ）への参加者 （策定委員除く）

番号	名 前	番号	名 前	番号	名 前
1	池田 浩恵	4	木城 経夫	7	小迫 恵子
2	恩地 隆雄	5	倉橋 守	8	永井 勢津子
3	角谷 洋子	6	河野 康裕	9	永井 真奈美

3 推進計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項等
平成29(2017)年 7月28日(金)	平成29年度三原市中山間地域活性化事業に係る打合せ	・地域推進計画策定の進め方について
8月29日(火)	第1回黒郷地区地域推進計画策定委員会	・地域推進計画策定委員会の設置 ・地域推進計画策定の進め方について ・アンケート調査, まちづくり意見交換会(ワークショップ)などについて
9月7日(木)	第2回黒郷地区地域推進計画策定委員会	・アンケート調査票について ・まちづくり意見交換会(ワークショップ)について
9月19日~30日	アンケート調査	・アンケート調査票の配布・回収
10月23日(月)	第1回黒郷地区まちづくり意見交換会(ワークショップ)	・アンケート調査結果の報告 ・意見交換(地区の資源・魅力と活用のアイデア)
11月20日(月)	第2回黒郷地区まちづくり意見交換会(ワークショップ)	・地区の問題点・課題と解決方法について ・参加者が関心のあること, 取り組みたいこと
12月13日(水)	第3回黒郷地区まちづくり意見交換会(ワークショップ)	・テーマ別の意見交換 ・優先順位の高い項目の検討と事業計画の作成
平成30(2018)年 2月1日(木)	第3回黒郷地区地域推進計画策定委員会	・推進計画素案の協議, 修正
3月1日(木)	第4回黒郷地区地域推進計画策定委員会	・推進計画案の協議, 承認 ・今後の取り組みについて